

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：横浜市川上保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：今井 夏子	定員（利用人数）：144名（168名）	
所在地：〒244-0805 横浜市戸塚区川上町4-9		
TEL：045-822-8987	ホームページ：	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 昭和45年7月1日（移転新築 平成11年 12月1日）		
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市		
職員数	常勤職員： 26名 非常勤職員 39名	
専門職員	保育士50名（育児休業中保育士2名含む）	保育補助 14名
	事務員 1名	
施設・設備の概要	保育室 9室	トイレ 5ヶ所
	調理室 1ヶ所	事務室 1室
	休憩室 1室	ホール 1ヶ所
	園庭 有	

③ 理念・基本方針

【保育理念】

○この世に、たった一人のかけがえのない存在として生まれてきた子どもたちが、愛され、認められ、幸せに生きていく権利を保証していく。

○すべての子どもが本来持っている「育つ力」を十分に発揮し、自らの人生を主体的に、自信をもって生きていけるように、適切な援助を行なう。

【保育方針】

○子どもの最善の利益を尊重し、子どもの生活を豊かにします。

○子どもの主体性を大切にしながら、個々の発達を保障します。

○同年齢・異年齢・地域の方々など、様々な人との関わりを持ち、互いに認め合い、育ち合うようにします。

○保護者や地域の方々の思いに共感し、楽しい子育てを支援していきます。

【園の保育目標】

○「遊びは学びの芽」いきいきと遊び すこやかに 心ゆたかに やってみたいな やってみようよ すてきな私 すてきな友だち

④ 施設・事業所の特徴的な取組

川上保育園はJR東戸塚から徒歩5分の所にあります。広い園庭と隣接する「さくらの丘」を擁し、また園庭のすぐ横にJRの線路があり、行き交う電車が見える等、保育には恵まれた環境となっています。園の周囲に地区センター、療育センター、地域ケアプラザ、地域活動ホーム、小学校等があり、地域の施設との連携の取りやすさもあります。施設の規模や収容児童数において公立としては市内で最大の保育園であり、立地条件や交通の便の良さから、利用希望が多い施設となっています。

園目標である「遊びは学びの芽」の通り、子どもたちの遊び込む姿や、興味関心を拾い上げ、そこから感性や学びを深める保育を心がけています。

戸塚区内の育児支援センター園として、地域の子育てを支援するために、様々な事業を主催しています。専任の職員を配置し、施設開放・交流保育・育児講座・育児相談・出前保育等実施しています。区内でも比較的子育て世代の住民が多いこともあり、毎年多数の参加者があります。

ネットワーク事務局園として、ネットワーク専任保育士を配置し、戸塚区内の保育・教育施設が連携して「保育の質及び専門性の向上」「地域の子育て支援の充実」「保育のセーフティネットの構築」「地域の保育・教育施設の連携の推進を図ること」を目的とした様々な取組を行なっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月14日（契約日）～ 令和5年3月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもが想像力を発揮できる環境への配慮と援助

職員は子どもたちの声をきちんと受け止め、やりたいことを実現し、想像力を発揮できるよう様々なしかけや活動を展開しています。「具材庫」を作り、単純な形のフェルト製「具材」を数多くそろえて自由に遊べるように配慮しています。保護者参加行事の「おたのしみ会」ではお話の世界からイメージしたことを親子で楽しんだり、絵本をテーマに友だちと取り組んだ共同制作を披露しています。また「形のインスピレーション」では各グループにそれぞれ三角などの単純な形を割り当て、子どもたちはそこから「魚の水の中めがね」など自由な発想で造形案を出しています。

2)園での活動の様子を保護者にわかりやすく伝える工夫

各クラスには「みんなのノート」があり、その日の子どもの様子を保護者に伝えています。今年度より「ドキュメンテーション型みんなのノート」を提示し、保護者に子どもの様子をよりわかりやすく伝えられるよう改善しています。個人面談や懇談会のほか、行事後には玄関ホールに紙面ツイッター（壁面掲示方式の感想アンケート）を掲示し、保護者から行事の感想を収集するとともに保護者と子どもの育ちを共有できるように努めています。写真掲示や「ドキュメンテーション型みんなのノート」など、視覚的に保護者の理解を得やすい伝え方を工夫しています。

3)前年度の課題改善に向けた組織的な体制づくり

前年度の園の自己評価の結果明らかになった、第三者評価（含全体的な計画）、職員連携、園内研修、グリーン&グラウンド（屋外環境整備）、Withコロナ（衛生対策）、室内環境、KSK（保育の可視化）からなる7つの自己評価プロジェクトに全職員が分かれ、それぞれの課題の改善に向けて取り組んでいます。プロジェクトメンバーを中心に、園全体で取り組み、保育実践の改善や専門性の向上に努めています。

4)児童虐待防止マニュアルの職員への周知

家庭支援については、職員会議、ミーティング等で話し合い、全職員で情報共有を図っています。送迎時には挨拶や保護者との会話を通じて子どもの様子や家庭での親子関係の把握に努めています。いつもと違う様子を感じた場合は、職員間で共有し、必要な援助がスムーズに行えるようにしています。また、保護者とコミュニケーションを図り、信頼関係構築に努め、送迎時や行事時には職員に相談ができるようにしてい

ます。虐待が明白になった場合は、関係機関（戸塚区役所こども家庭支援課、区の保健師、戸塚警察署、横浜児童相談所等）と連携し、必要に応じてカンファレンスを実施し、対応の共有を図ります。職員は、虐待対応に関する研修を受講し、横浜市子ども虐待防止ハンドブックを把握していますが、職員数が多い園なので更に共有をすすめる必要があります。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

川上保育園では平成29年度以来、5年ぶりに第三者評価を受審しました。前回受審時から評価票が変わり、新たな項目を一つずつ読み解きながら園の実践と運営を振り返りました。

職員数の多い川上保育園では受審に向けてプロジェクトを中心に、小人数の複数グループに分かれて話しあい、全体で内容をすり合わせてフィードバックを行う等、工夫しながら自己評価票を記入しました。その取り組みの中で職員の園に対する理解が深まり、新たな気づきを共有することもでき、園のスキルアップの機会にもなったと感じています。

マンパワーの大きさ、園児が多くの子と出会える等、規模が大きいことが川上の長所の一つですが、反面、調査員の方と話し合う中で職員間の情報共有や研修参加など、連携や調整には尚一層の工夫と対応が必要だと感じました。自己評価をする中で職員は更なる向上を目指して評価をbとした部分も多くあります。今回の受審を川上保育園のブラッシュアップのきっかけとして、利用者の皆様にとっても、働く職員にとってもより良い園となる様、今後も丁寧な保育実践と園運営に取り組みたいと思います。

最後に、第三者評価受審に際し、ご多忙の中アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、ご尽力いただきました評価機関の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり